

## 第 7 回技術アドバイザー国内委員会 議事録

1. 日 時 2003 年 10 月 27 日 ( 金 ) 10 : 00 ~ 12 : 00
2. 場 所 原子力発電環境整備機構 大会議室
3. 出席者  
委 員 : 大江委員長, 石黒委員, 市川委員, 河西委員, 楠瀬委員, 田中委員, 中村委員 ( 委員長以下 50 音順 )  
原環機構 : 増田理事  
事務局 : 北山技術部長他
4. 配付資料  
資料-1 第 6 回技術アドバイザー国内委員会議事録 ( 案 )  
資料-2 「高レベル放射性廃棄物地層処分の技術と安全性」及び「概要調査地区選定上の考慮事項の背景と技術的根拠」について
5. 議事概要
  - 5.1 前回議事録の確認  
前回議事録 ( 案 ) ( 資料-1 ) について事務局より説明がなされ, 了承された。
  - 5.2 技術アドバイザー国際委員会報告  
7 月に開催した技術アドバイザー国際委員会での議論について, 北山から紹介された。
  - 5.3 高レベル放射性廃棄物地層処分の技術と安全性 ( 案 ) - 「処分場の概要」の説明資料 - ( 以下, 「技術と安全性」という ) へのコメントについて  
各委員からの「技術と安全性」への主要なコメント ( 予め選択 ) について, 各委員の補足説明を加えそれに対する機構からの対応の考え方が示された。全体について委員長が「文章は簡潔・明瞭, 誤解のないように記述すること」とまとめた他, 以下のような意見が出され, 報告書修正に当たり配慮することとなった。
    - 4 章「処分場の設計」の中で性能から期待される要件をどのようにフィードバックしていくのか。FEP, シナリオでどのように考慮し 4 章の設計に反映するのか 4 章に記述すべき。
    - 5.7.3 「わが国におけるモニタリング計画の概要」というタイトルはわが国に既にモニタリング計画が存在しているように受取られてしまう可能性があるので 5.8.3 の品質管理のタイトルのように「~の考え方」を付けるなど工夫が必要。
    - 結論や NUMO の考え方などを先に書いて, 次にその背景となる情報を記述するような文章の構造が望ましい。
    - 「地層処分に関心のある専門家」は定義が曖昧。地元の首長まで対象に含めるべきではないか?
    - 適切な日本語がない場合に用語をカタカナでそのまま使用するのは誤解を防ぐ意味でもよいと思うが, その説明においては日常使われる表現で解説すべき。
    - ページごとに注釈は必要だがさらに巻末に用語集をまとめるとよい。

- 1～4章と5～7章とで書き出しの形式が異なっている。各章の冒頭に「その章で何を言いたいか」と「他の章との関連」を書かないと読みにくい。

#### 5.4 概要調査地区選定上の考慮事項の背景と技術的根拠（案） - 「概要調査地区選定上の考慮事項」の説明資料 - （以下、「考慮事項の背景」という）へのコメントについて

各委員からの「考慮事項の背景」への主要なコメント（予め選択）について、各委員の補足説明を加えそれに対する機構からの対応の考え方が示された。全体について委員長が「概要調査以降の調査技術を記載できるようその内容を検討すること」とまとめた他、以下のよう意見が出され、報告書修正に当たり配慮することとなった。

- 第3章が重要であると思うので、検討過程とそれから得られた結論が何であったか、判りやすく示す必要がある。
- 内容を個々に書きすぎていて言いたいこと本筋がぼやけてしまっている。読んでいて混乱し疲れる。まとめを各章に入れるべき。一方、骨子を冒頭に出しているのはこれで判断したことがわかるのでよい。
- 概要調査以降でどんな調査を行って評価するのか、書ける部分は書くべき。
- 「考慮事項の背景」で引用している NUMO の成果の論文化を急ぐべき。
- 概要調査以降の調査技術も記述すべきではないか？
- 補足調査の位置付けが不明確。位置付けを明確にすると良い。また、火山、活断層と隆起とはその位置付けが異なるように思う。
- Glossary にも出てくるが、言葉の使い方に混乱が見られる。現象を指すガス突出、山はね、大湧水、トラブルの原因となる要因である膨潤性地山、さらにその原因である異常間隙水圧などカテゴリーがまちまち。現象で統一したほうが望ましいが、これまでの経緯もあるため、今後説明などにおいて注意される事が望ましい。

以上